

# アオサナエ

*Nihogomphus viridis* (Oguma)

## トンボ目サナエトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

### 選定理由

小松市の3河川のみから知られ、個体数も少ない。

### 形態

腹長37~43mm、後翅長29~38mmで、鮮やかな緑色の中型サナエ。肩に太い黒条があり、オスは第7~9節が著しくひろがって、長大な黄色の尾部上付器がある。

### 国内分布

日本特産種で、東北から南九州まで分布するが、産地は限定され、富山県でも希少種である。

### 県内分布

小松市の西俣川、大杉谷川、那谷川の中流域に生息するが、多くない。

### 生態

丘陵地の砂礫底の河川の中流に育ち、成虫は5~7月に出現する。未熟期には林野に分散して摂食する。成熟オスは水面に出た石や岸辺の岩の上などに静止してメスを待ち、時々流れの上を飛翔するが、行動は極めて敏速である。メスを発見すると急追し、空中で捕えて環状となり、樹枝にとまる。産卵は卵塊を作ってから行なう。

### 生息地の条件

流れのゆるい砂礫底の中流域で、あまり深くなく水量がかなりあること。流れの中や岸辺に、静止するための水面に出た岩石があり、幼虫が羽化するための植物や岩石が散在することも必要。農業や廃水が流入せず、付近に樹林もあること。

### 生存の危機

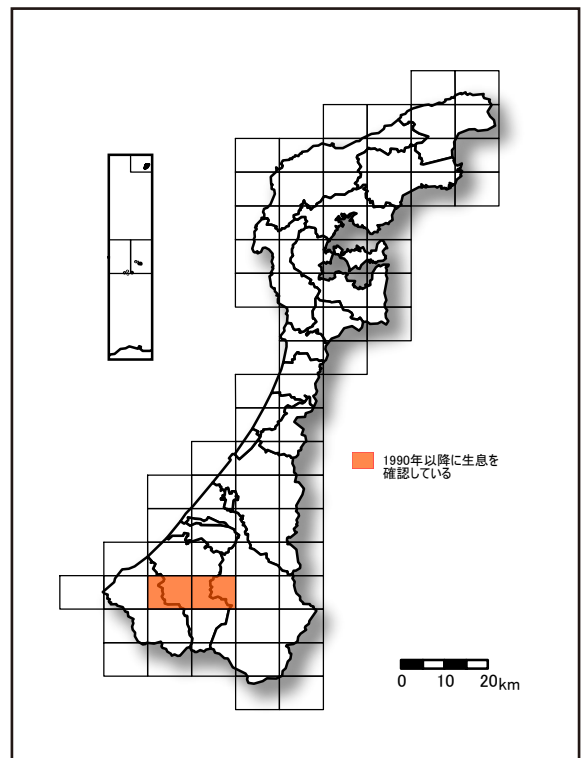
キイロサナエ、オナガサナエ、ホンサナエ同様、河川のゆるい中流域に生息するトンボとして、農業や廃水、廃棄物の投入などによる影響を受けやすい。流れを直線化したり、岩石を除去し川床をならしたり、抽水植物を取り去るなども負の要因。ダムや堰で上手は水が淀み、下手は水量が減る場合もあり、コンクリート堤防が連続することなども減少につながる。付近の樹林の伐採も、摂食空間や休止場所をうばうことになる。(A)

### 参考文献

武藤 明 1998. トンボ目. 石川県の昆虫: 49-57. 石川県自然保護課.  
武藤 明 1998. 石川・福井の1998年度の蜻蛉資料. *Tombo*, 41: 33-36.



標本提供者: 武藤明



県内の分布